

公益社団法人 三国・芦原・金津青年会議所 2019 年度
スローガン・基本理念・基本方針・運営方針

2019 年度理事長 南 信博

【スローガン】

想いを繋げる MAK

～地域の魅力をより輝かせるために～

注：MAK = Mikuni.Awara.Kanazu (三国・芦原・金津)

【基本理念】

はじめに

私は歴史ある三国に生まれ育ちながら、学生時代は地域の伝統や文化に興味が無く、都会への憧れはあっても、地域に魅力を感じる事が出来ずに過ごしていました。また、三姉弟で男一人という家庭環境から、幼少期より家業は自分が継ぐしかないのだろうと、諦めにも似た考えすら持っていました。社会人になってからも、自分の為の時間の使い方をしながら暮らしていた中で、私は地域に青年会議所という団体があることを知りました。そして、地域で活躍されている方々の多くが卒業生であることも知り、青年会議所の活動そのものに興味が湧いていきました。

しかし、特に大きな心境の変化もなく毎日を過ごしていた 2011 年に父親の急死という大きな転機が起こります。その直後から家業の商いに奔走する日々が続く、仕事以外のことなど考えている時間などないと思っていました。私と繋がりのある人達との交流の中で、楽しい時にも辛い時にもいつも周りには様々な人が関係していることや、人と人との繋がりの中に自分があるのだと改めて感じました。そして、このまま自分のことだけを考えて行動していて良いのだろうかと思い直し、こういう時だからこそ人との縁を大切に、自分の住み暮らす地域にも何か貢献して行きたいという考えが強くなりました。翌年、新たな縁もあって青年会議所へ入会することになり、その後の JC 活動の中でも多くの経験をさせて頂きましたが、活動の中でいつも感じることは、物事の全ては人と人との繋がりから始まっていくということです。そのことを踏まえてみても、誰しも一人では、一人分の力しか生み出すことしか出来ず、二人以上が集まることで二人分以上の力が生まれると私は考えます。同じ目的を持った私達だからこそ出来る運動を積極的な行動力で行っていきましょう！

会員の開発と拡大で新しい流れを作る

この地域での活動を通して認知度を上げ、MAK・JC の存在価値を強くするためには、

まずは現役のメンバーが持っているそれぞれの能力を存分に発揮することが出来、そして新しい能力も身に付けることが出来るような、個人が成長できる環境を作り出すことがとても重要です。それと同時に、数年来の課題になっている新しい人財の発見、すなわち会員の拡大が必要不可欠です。MAK・JCには、創立45周年の機会に掲げた「会員拡大とスキルの向上による組織の増強」という重点目標があり、5年後の達成に向けて活動してきました。本年度も昨年度更新された拡大システムを継続して活用し、都度見つめ直しながら更新を繰り返して行くことで、この地域において様々な場面でリーダーとして活躍する人財が、今後もJC経験者であり続けるために、個人の成長と会員拡大の成果を追及します。

地域と連携して新しい活動を作る

創立45周年の機会には、創立50周年に向けての背景を盛り込んで、まちづくりとひとづくりに関する重点目標も掲げました。まちづくりでは、「広域的な視野を持ち地域に密着してにぎわいを作る」ために、ひとづくりでは「青少年の意識を高め地域の未来を描く」ことが出来るように、三国・芦原・金津の3地区で活動するMAK・JCだからこそ出来る活動や、この地域ならではの資源を活用した活動を今まで以上に積極的に実施することで、私達の住み暮らすこの地域に活気を生み出すことが出来ます。そのためにも、時流を感じ取り、様々な情報を目的に合わせてしっかりと収集し、地域から求められる事業の構築を行わなければなりません。また、行政や他団体との昨年度からの連携を本年度も継続して行うことで、繋がりがより太いものになり、その結果として今までとは違った成果も得ることが出来ると思います。

「明るい豊かな社会を築いて行く」という私達の運動の目的を、連携する団体同士でも時には共通の目的として認識することで、それぞれの建設的な対話が増え、意思疎通が明確になり、信頼関係も醸成され、大きな力とすることが出来ます。その力を私達のまちづくりや青少年育成の事業構築に活かしながら、様々な部分での繋がりを縁として大切に感じ、連携して活動することで、関係諸団体だけでなく地域住民にも注目される活動を展開します。

情報の共有と積極的な発信で繋がりを作る

青年会議所の活動情報をHPやSNSで、分かりやすく小まめに発信することで、活動内容を知ってもらうことができ、それを継続することで更に認知度を上げることが出来ます。そして、関係諸団体や地域住民との情報共有が多ければ多いほど、事業への参加協力や連携などにも繋がっていき、結果や成果がより良いものになると考えます。私達の活動内容の情報を積極的に発信して行くことで注目されることも増えてますが、その分適度な緊張感を持ちながら、効果的で質の高い内容の事業ができ、それぞれのメンバーが意識を高め合うことで組織力の向上にも繋がります。

温故知新で MAK の新しい強みを作る

1970年に創立された MAK・JC は、2019年度で50年目を迎えることとなります。これまでの長い年月に同じ志を持って、この地域で活動してきた先人の想いがしっかりと繋がってきたからこそ、今現在の MAK があります。2020年度に行われる創立50周年に向けて、本年度はとても重要な年度であり、これまでの49年間で先輩諸兄が実践してきた経験やデータ等を振り返るには最適な時期です。新入会員のみならず、現役会員全員がしっかりと過去を見つめ直すことで、今の自分達の課題や地域の課題を整理掌握することが出来ます。また、それを最大限に活かすための議論を積み重ねることで、新たな強みを作り出すことが出来ると考えます。さらに、その意識の共有をもって今まで以上にメンバーの繋がりを深め、個人力ではなく組織力としての活動を創立50周年に、次世代に繋げます。

結びに

この地域には自然や歴史、景観そして人財など多くの魅力が存在しますが、そこに住む一人の住民として、または青年会議所の一会員として、自分は地域のどの部分に一番魅力を感じているのか、今一度見つめ直しましょう。人は誰も何か行動を起こす前に必ず想いがあります。それは、自分や家族のため、会社のため、地域のためと、内容は様々ですが、どんな想いも意識を高めなければ生まれることはありません。情報化社会の加速により、今後も発信する機会がますます増えていく今だからこそ、そこに住み暮らす私達が意識を高め、地域のことをしっかりと理解していなければなりません。そして、理解した上で地域に求められる行動を積極的に起こすことで、私達が主動してこの地域をより輝かせることが出来ると確信しています。

青年会議所の目的は一つです。これまでもその時代の青年が地域の未来のために積極的な活動をしてきたように、責任世代である私達が明るい豊かな社会の実現に向けた運動を展開して行かなければなりません。一人ひとりの力は小さなものでも、それぞれの想いを重ね合わせて大きな力にし、自分達が出来るところのそれぞれの一步をしっかりと踏み締めて、想いを繋げて行きましょう！

【基本方針】

- ・ 会員の成長の機会と新たな人財の確保
- ・ 行政や他団体とのネットワーク強化に繋がる連携
- ・ シニアクラブを中心とした地域の先人との回顧と交流
- ・ 福井ブロック協議会や他 LOM との資質向上に繋がる連携
- ・ 情報共有の徹底、外部からの認知度の向上
- ・ 費用対効果を意識した適正な財務管理の実施

【運営方針】

- ・ 会員同士の交流による人材育成と新たな意識の創出を図る
- ・ 拡大進捗状況を毎月把握し、繋がりのある会員の増員に取り組む
- ・ MAK だから出来る三町を繋げるまちづくりとひとづくりの事業構築を行う
- ・ 他団体との連携をより深め、新しいネットワークを活用した事業構築を行う
- ・ 日本 JC 関連の事業への積極的な参加や他 LOM との有意義な交流を行う
- ・ HP や SNS を頻繁に更新し、活動を発信して身近に感じてもらう
- ・ メンバーへ当月と翌月の活動内容をメールで周知徹底する
- ・ 予算段階から正確な明細を検討し、有意義な支出になるように協議する